令和7年度　自己チェック評価表

酒田みずのべ保育園　　令和7年度3月実施

	今回の評価点 （保育で工夫した点、高く評価できる点）	今回の課題点 （保育でより努力を必要とする点）	今後の改良点 （次年度に向けて改善すべき点）
乳児クラス運営評価	◎子ども一人一人の気持ちに寄り添い、安心して過ごせるような言葉掛けや関わり合いを心掛けた。 ◎子ども達の性格や発達の違いに考慮した保育を心掛け、落ち着いて過ごせるよう環境作りに努めた。 ◎担任間で連携しながら、子どもの様子を共有し、適切な援助に繋げて保育をすることができた。 ◎家庭との連携を心掛け丁寧な説明や保護者と信頼関係に努めた。 ◎職員間で情報共有を行い、報告や話し合いをしながら、色々な意見や視点があり、楽しく学べた。 ◎担任間で報連相を明るい雰囲気の中、子ども達のやる気、意欲を引き出すことを多く行った。 ◎クラス全体で子どもが主体的に選択し決めて、行動や遊びができるように取り組んだ。	◎子ども一人一人と丁寧に柔軟な対応で関わることが出来なかった。忙しい時間や流れ作業な場面など。 ◎個人差が大きく、配慮に必要な子どもが多くて、対応が難しく大変で行き届かないもどかしさがある。 ◎色々な保育者との保育の中で、連携が取れてなかった場面もありコミニュケーションを十分連携する。 ◎保護者との関係で、情報共有や見通しが不十分な場面もあった。 ◎立場の違いから遠慮してしまい、気づいたことを適切なタイミングで共有できない場面もあった。 ◎職員間との連携が十分でないと感じる場面もあり、保育活動の流れや切り替えがスムーズにいかない。 ◎個々の成長に差がある中で、クラス全体の活動の進め方に悩む事があり、配慮が不十分な時があった。	◎子ども一人一人に寄り添いながら、言葉にならないサインを汲み取り、安心な関わりで楽しい保育をする。 ◎子ども一人一人の個性や発達の理解をより深め、担任間や全体での連携を図り、適切な保育を行う。 ◎職員間で視野を広く持ち、こまめな情報共有と連携や報連相をしっかり話し合い、計画的な保育を心掛ける。 ◎子どもや保護者へ適切な言葉掛けや支援を常に意識して心掛ける。 ◎不適切保育の研修で、保育や思考を見つめ直し、反省や考察を職員間で共通認識をしたい。 ◎職員間の関係性を強く意識し全体をよく見て、必要なところのサポートを声掛けたり手伝ったりして保育する。 ◎子どもの姿に応じた環境構成を見直し、意欲的に取り組み遊びや活動ができる環境づくりを行う。
幼児クラス運営評価	◎一人一人の子どもとしっかり向き合い、安心安全に楽しく過ごせることを大事に保育を努めた。 ◎自分で考え行動できるよう伝え遊びや遊具を子どもが決め、出来た時は褒め主体的に遊んだ。 ◎メリハリのある保育を心掛けて大きな行事に向かって、楽しく参加出来るように声かけを工夫した。 ◎担任間で同じ方向に保育できるように話し合ったり、考えを表出したりすることができた。 ◎配慮が必要な子どもに対して丁寧に関わりながら、自分でできることを増やせるように心がけた。 ◎担任同士で話し合い、保育の仕方や行事の進め方を決めた。又他クラスとの交流で助け合えた。 ◎個々の発達や性格に応じた適切な対応や保護者支援が必要な人へ話し合い、対応できるようにした。	◎一人一人に向き合う保育と活動が全体へスムーズに進めるバランスが上手くいかないことがあった。 ◎子どもへ注意する際に大きな声になってしまうことがあり、声の掛け方やボリュームに気をつけていく。 ◎大きな行事が近くになってから運動や楽器に触れるのではなくて、日々の保育から取り入れていく。 ◎活動の切り替えがスムーズにいかない事があり、担任間で分担し時間をもっと有効活用できるとよい。 ◎援助の必要な子ども達が多く、他の園児がまとまらず、もっと平等に関わる必要性がある。 ◎行事が多く、計画していてもぎりぎりなこともあり、子ども達の様子や活動の配分を見ながら進めていく。 ◎子ども一人一人の特徴や成長が理解できていない為、しっかり把握するよう自分の保育を見つめ直す。	◎ゆとりを持ちながら保育を行い、子ども一人一人の気持ちに寄り添い声掛けや援助を行う。 ◎子ども達へ注意する際は大きな声ではなく、何故いけない事なのかを伝えるよう冷静に話していく。 ◎行事の時期の見直しや日々の保育の見通しを持って、自ら考えて行動ができるように意識する。 ◎担任間での「報告･連絡･相談」をきちんと行い、子どもが安心して過ごせる場所や環境を作っていく。 ◎一人一人の発達や支援に応じた関わりを意識して、スムーズに切り替えができるように援助していく。 ◎子どもへしっかりと向き合う時と全体を動かす時とのメリハリをはっきりとつけられるように考慮していく。 ◎周りをよく見ながら必要最低限の援助を行い、不適切保育にならないよう気持ちに余裕を持って保育する。

園全体評価	◎子ども達が明るく元気に過ごせる環境が作れ、温かい雰囲気の中で安心できる保育が行われていた。 ◎自分のクラスだけではなく、異年齢児と散歩や園庭等で一緒に遊び他クラスへ意識を向け交流した。 ◎各種の会議では保育や子ども達の様子を情報共有し合い、共通理解を持って保育ができた。 ◎職員間で声を掛けながら　他クラスのことも手伝って協力し合い、円滑に保育を行うことができた。 ◎子ども達が喜ぶ行事を企画したり園長先生が誕生会サプライズしたり園児と特別感なふれあいが良い。 ◎感染症が流行している時は適切な対応が取れて、感染状況を掲示やボードで保護者へ周知していた。 ◎毎月の防災訓練を実施し、職員や園児もその都度、避難方法を確認し災害に備えている。 ◎人権研修（動画視聴）に全職員が参加し、自分の保育について振り返りができて勉強になった。 ◎不適切な保育の研修や行事、仕事内容（量）の見直しをし、働きやすくなり安心して保育ができた。	◎日々の保育の中でゆとりを持って関わることが難しい場面があり、活動や遊び、玩具等も工夫したい。 ◎保育がクラス毎として捉えてしまう傾向になりがちで、他クラスとの関わりを持てる機会を多く設けると良い。 ◎子どもへの対応や関わりについて職員間での共通認識をより深めていく必要性があると感じた。 ◎職員間の連携や業務分担に課題があり、情報共有の時点や方法、協力体制や負担軽減を話し合う。 ◎年長クラスは行事や活動が多く、担任は負担が大きいので、他クラスが協力し合いより良い保育を考える。 ◎園庭の砂が少なく木の根や石が露出し少し危険性を感じ、子どもの怪我防止の為に整備する。 ◎職員配置が難しい部分はあるが、朝と夕方保育の人員を増やし良かったので、常に検討していく。 ◎保育の中で感じたことや気づきを職員間で十分に共有できていないと感じる場面もあった。 ◎疑問が残る保育や関わりについて自覚しているか、不適切な保育は常に個人や全職員も学んでいく。	◎子どもと丁寧に関わる時間が確保できるように、業務の見直しや保育の工夫をしていく。 ◎異年齢児との関わりを持ち、思いやりや憧れの気持ちが持てるよう相互的な関係を深める。 ◎日々の連携を大切にし、他クラスや周囲にもしっかりと目を向けて、より良い保育へ繋げていく。 ◎情報共有を強化し連携を深め、職員一人一人が全体を見えるようになると保育や業務も非常に良くなる。 ◎年長児クラス運営をフォローしたり、全クラスの手伝い等を視野に入れて協力し合い保育をしていく。 ◎園庭に砂を入れて子ども達が滑ったり、つまずいたりしないよう安全対策をしっかりできるようにしたい。 ◎子ども達が関わる所や全ての環境整備を怠らないようにし、安心安全に過ごせるようにする。 ◎職員間とのコミニュケーションを大切にしながら、保育の気づきや考察を共有していきたい。 ◎職員間で話し合いや研修の機会を充実させて、保育の質の向上に繋げていきたい。
特記	・子ども一人一人の思いや発達に寄り添い職員間の連携を大切にし、状況に応じ主体的に関わるよう取り組む。 ・子ども一人一人の発達や特性に応じた関わりを大切に、職員間で役割分担し全体を見通した援助を行う。 ・乳幼児の各クラスの異年齢児との交流を多く図り、思いやりや憧れの気持ちを育む。 ・給食の時間だけでなく、活動の保育中でも食に興味を示すよう絵本や遊び等、分かりやすく取り入れていく。 ・子どもが主体的に食へ関わる環境作りを意識し、食を通し子どもの成長を支える大切さを感じる保育をする。 ・周囲の動きも意識し自分から動く事の大切さを身につけ、子どもにより良い環境作りをしながら保育を行う。 ・子ども一人一人の人権を大切にし、不適切な保育に留意した安心安全な保育を展開する。		